

# 近衛中学校 令和7年度前期学校評価アンケート

## 考察(全国学力調査生徒質問紙との比較から)

1, 学校教育目標【自主自律そして自治】への到達度  
「社会や人とのつながりを大切にし 可能性を最大限に探究する たくましく生きる生徒」

Q, 地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか(社会や人とのつながりを大切に)

	当てはまる	だいたい当てはまる	計
全国	22	53	75
京都府	20	53	73
本校生徒	29	50	79

### 【考察】

全国、京都府よりポイントが下がっている。コロナ禍から地域と共に歩む①教科(家庭科での高齢者理解・幼児とのふれあい活動)②キャリア教育として地域で「生き方探究チャレンジ体験」③地域行事(節分祭・商店街パレード・祭礼)の参加④家庭教育学級では地域在住の大学教授の講演、また隣接している京都大学関係者などの講演などで地域とのつながりを意識した活動を取り入れている。人権学習では、地域の障害者福祉施設の園長先生の講演と施設のイベントでの交流。隣接する留学生寮の外国の方との交流で、多文化共生学習なども行っている。このような取り組みでこれからも地域や社会と自分とのつながりを感じてほしい。

Q.家で自分で計画を立てて勉強していますか(可能性を最大限に探究する)

	当てはまる	だいたい当てはまる	計
本校生徒	R6/20→26	R6/37→33	R6/57→59

Q.授業では課題解決に向けて自分で考え、自分から取り組んでいる(可能性を最大限に探究する)(分からないことや知りたいことがあった時、自分で学び方を考え、工夫することができる。)

	当てはまる	だいたい当てはまる	計
全国	27	50	77
京都府	26	51	77
本校生徒	29	51	80

### 【考察】

昨年度よりスケジュールノートを変更し、継続して使用させることを徹底してきた。日常的に自分のスケジュールを管理し、以前は配布されていた資料を、自ら確認して記入したり、計画性を持って学校生活を過ごすことができる生徒が増えてきた。また課題解決に向けて自分で考え、自分から取り組むことができるという生徒が全国、京都府よりかなり上回っている。今後も継続してスケジュールノートを活用し、より一層自分自身を見つめ自ら管理し、生活を工夫し、課題解決できる力を育みたい。

Q, 難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦している(たくましく生きる)

	当てはまる	だいたい当てはまる	計
本校生徒	R6/24→25	R6/45→51	R6/69→76
保護者	R6/16→15	R6/56→54	R6/72→69
教職員	R6/6→6	R6/82→56	R6/88→62

### 【考察】

生徒は昨年よりポイントが上がった。保護者から見ても、何事にも一生懸命に取り組んでいると評価している。教職員からの視点では、物足りなさが露呈する結果となった。これからも普段の学校生活で、また行事などでの活躍の場を広げ、挑戦する気持ちを持たせ、達成感、自己有用感を感じさせられる機会を増やしていきたい。

- Q, 総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め、整理して、調べたことを発表するなど  
の学習活動に取り組んでいる。(他人と協力し探究し続ける)(生徒・教員)
- Q, 子どもは学校で学んだことを生かして、自分の考えをまとめたり思いや考えをもとに、新しいものを  
作りだしたりする活動を行っている。(保護者)

	当てはまる	だいたい当てはまる	計
全国	30	50	80
京都府	28	52	80
本校生徒	40	50	90
保護者	12	44	56
教職員	31	50	81

【考察】

総合的な学習の時間では自らの課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を  
解決する資質や能力を育成することが目標の1つとして掲げられているが、本校では「近衛タイム」とし  
て3年間系統立てて取り組んでいる。その1つとして上級生の探究活動のプレゼンを聞く機会を設けて  
いる。そうした取組により、年々、より探究的な見方、考え方を身に付けられるようになってきており、将  
来の自己の生き方を考える一助になると確信している。全国、京都府とより10ポイント上回っているの  
で、これからますます力をつけていきたい。

2. 自己有用感について  
(保護者, 教職員アンケート含む)

- Q, 自分には良いところがあると思いますか(生徒)
- Q, 学校で子どもの自己肯定感は育まれている(保護者)
- Q, 生徒の自己肯定感を高めるように指導方や活動の場の提供など努力している(教職員)

	当てはまる	だいたい当てはまる	計
全国	41	46	87
京都府	40	45	85
本校生徒	45	43	87
保護者	25	55	80
教職員	63	37	100

【考察】

以前はこの項目が全国より低く、改善するために、小学校との連携をすることで(六校会)で数年取り組  
んできた。全国、京都府と同等になってきたことは、日々の教育活動で、教職員一同、生徒一人ひとりを  
大切に、達成感や自己有用感を育んできた成果であると思われる。多くの保護者がそのことに理解を  
示してくださっている。

- Q, わたしは将来の夢や目標を持っている(生徒)
- Q, 子どもは将来の夢や目標を持っている(保護者)
- Q, 生徒は将来の夢や希望を持っている(教職員)

	当てはまる	だいたい当てはまる	計
全国	36	32	68
京都府	34	31	65
本校生徒	47	30	77
保護者	18	45	63
教職員	0	94	94

**【考察】**

この項目については、中学生の多感な時期でもあり、まだまだ将来について漠然とした意識しか持てない生徒が多いと思われる。その中でも、将来の夢や希望を持っている(当てはまる)と自信を持って答えている生徒が全国、京都府を大きく上回る数値である。これは探究的な学習の積み重ねにより、よりよい自己実現への教科指導、また道徳、キャリア学習、総合的な学習の時間での取組の成果であると考えられる。学校では、生徒が夢や希望について考えたり、語ったりする機会があり、生徒も一定夢や目標を持っているが、家で将来の夢や目標について話す機会も少なく、保護者の数値が低い原因となっているのではないかと考えられる。

**3. ICTの使用について**  
(保護者、教職員アンケート含む)

Q, 学習の中でコンピューターなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか(生徒)

Q, 子どもはコンピューターなどのICT機器を学習に役立っている(保護者)

Q, 生徒がコンピューターなどのICT機器を学習に役立つように授業で使用している(教職員)

	当てはまる	だいたい当てはまる	計
本校生徒	R6/56→58	R6/36→37	92→95
保護者	R6/26→22	R6/54→57	80→79
教職員	R6/35→31	R6/59→50	94→81

**【考察】**

学習の中でのICT機器の使用は日常となり、特別なことではなくなってきた。各教科でのICT機器の利用により、自分の考えを共有できたり、また自分の考えを系統立てて整理でき、教員も生徒自身も学習のフィードバックがしやすい。ICT活用は大変便利である反面、情報モラルの学習は必須となる。保護者の数値が生徒や教職員より若干低いのは、自宅での子どものスマホの使い方や、SNSの使い方、ICT機器に依存など心配な部分があるためと見られる。